土木森林環境委員会　県内調査活動状況

１　日　　時　　平成２３年１１月２５日（金）

２　委員出席者　（８名）
　委 員 長　　白壁　賢一
　副委員長　　桜本　広樹
　委　　員　　前島　茂松　　武川　勉　　望月　清賢　　石井　脩德　　仁ノ平尚子
　　土橋　亨

　欠席委員　　望月　利樹

　地元議員　　渡辺　英機（南都留郡）

３　調査先及び調査内容

（１）【国道１３７号新倉トンネル（仮称）】

○調査内容（主な質疑）
問）今回、国道１３７号という区間だが、これが完成することによって、旧国道は格下げになるのか。
　また、（資料の）黄色い部分の市道新倉南線は、一体的にこの区間が国道になるのか、あるいは同じ状態にありながらどこかの区間で国道と市道という形で住み分けるのか。どんな状況になるのか伺う。

答）まず、現在の１３７号の管理についてである。現在の１３７号は、湖岸沿いを船津地区を抜けて富士吉田市側に抜ける路線である。この国道については、このトンネルを国道としている。現道については、今後、県道か市町村道に編入ということになると思うが、全体ネットワークの中で検討してまいりたいと考えている。
　市道新倉南線は、このトンネルの先、黄色い部分について、この黒い部分が一部市道なのだが、この先が県道になる。もう１つ白い部分があるが、これは市道である。今後、水色の部分は国道という方向で認定する形になるかと思うが、その先、黒のほうにいくか、白のほうにいくかということで、どちらに行っても１３７号に戻るルートがあるので、これも全体ネットワークの中で位置づけてまいりたいと考えている。

※河口福祉センターにおいて、国道１３７号新倉トンネル（仮称）についての概要説明・質疑を行った。その後、現地視察を行いながら質疑を行った。

（２）【意見交換会】

①出席者

・河口地区の街並みを考える会会員

・冨根都クラブ会員

・富士河口湖町担当者

・山梨県県土整備部美しい県土づくり推進室長

②内　容

ア　概況説明

・「河口地区の街並みを考える会」の活動状況について

・「冨根都クラブ」の活動状況について

イ　主な意見

議　員）

午前中視察した国道１３７号新倉トンネル（仮称）が完成して、富士吉田のほうへ交通が抜けることになると、全体的には渋滞解消の問題に役立つと思う。ただ、地域の皆さん方にとって光と影の部分で、皆さん方の地域が影になってしまっては困るということを大変心配している。

私は御坂トンネルの向こうの笛吹市に住んでいるが、ここを通ることが多いほうである。私の小さいころ、若いころから、御坂トンネルを出て下ってくると富士山が見えて、赤いトタンの屋根が広がる町並みがきれいで、笛吹市とは趣が違った。一軒一軒は決して大きくないけれど、中２階のような一体感を持った家造りが、長い歴史を感じさせた。最近は屋根の色などいろいろ個性化してきているが、昔の町並みを思い起こしながら、皆さん方がこれからこの地域をどうしていくかという点で、本当に真剣に考えていかなければならないと思っている。

２つのグループの取り組み方、目指そうとしている趣旨、動機などをお聞きして、歴史、文化、それを基調にして、地域おこしをやろうという点について、全く同感に思っています。そのためには、やはりまず地域の皆さん方のいろいろな違いを越えた地域の一体感によって、どう輪をつくっていくかが課題だと思っている。それも地域の人たちが、自分たちの地域をどうするかというコミュニティの関係を、繰り返し寄り合いをやりながら皆さんの意見を広く聞きながら、ここで作られた計画に肉を付け、そして、つくり上げていってもらいたいと思う。

そんな関係の中で私が期待をする１つとして、屋根の色などはある程度統一できないかということを感じる。そして、この地域の庭木で一番育ちやすい木は何だろうと考えると、イチイ、キャラなど寒さに強い木が合う。花でいうと何か、そういうものを一軒一軒に植えたり、道路に面した外壁を板張りの木の壁に統一できないかというようなことを考えたが、話題の１つとして意見をお聞かせいただきたい。

出席者）

おっしゃるとおりだと思う。いろいろな視点があって、人それぞれ感じて、確かに私ども昔を思い出すと、赤い屋根があって古びた家並みの風情が感じられた。しかし近年、この１０～１５年くらいの間にかなり変わってきている。ただ、道路が、昔の御師の町並みを残すようなものがほとんどないということで、商店も少ないところなので、まずできることからということで今、手をつけ始めたのが神社の参道で、これだけきれいになった。また、イメージハンプというようなものも、

これから神社の前を神社だということがわかるようにしたい。その周辺から手をつけていって、近隣の道沿いの住宅の方に、委員からいただいた提案を伝えたいと思う。軒下を改装して、何らかの商いを始めるのも、一つの色を出せると感じている。本当は住んでいる方に他に移っていただいて、別の家並みを建てるということも考えられるが、道路の問題や今住んでいる住宅との関係から、なかなか難しい。神社から広がっている町並みに統一感が出せればいいが、大きなテーマだと思っている。

議　員）

何かしようと思うと、やっぱりすぐかかわるのはお金だと思う。その問題でとまってしまうことも多いと思うので、できることからということだと思う。富士河口湖町として、どの部分でどんな助成、応援をしてくれているのか。

出席者）

この２つのグループについては、富士河口湖町としては当初、景観計画の策定においての意見をいただくために結成していただくのが目的だったところから、今はそれだけでなく自主グループ的な形になって、総体的な環境づくりや町づくりのほうに考えが移行しているところである。

議　員）

最初は意見を聞きたいというところから始まったが、自主的に、より進んだ活動をしていただいているということか。

出席者）

そうである。より進んで自主的に、当初の目的だけではなく、もっと町づくりのことまで考えて、歴史・文化を引き継いでいこうというような自主グループ的なものに変わってきたというのが実情である。よりいい方向へ発展した。

現在、助言していただくコンサルタントにかかる費用について、町で負担している。こちらにも来ていただいているが、今、町の景観計画策定の委託を受けている業者等に一緒に入っていただいて、策定を進めている状況である。

議　員）

たしか勝山村は、生け垣を整備しようということで、村が率先して助成をして、村づくりをしていった時代もあったようだ。先ほど前島委員の話にあったが、たしかに御坂からおりてくると、視界が開けて富士山がすばらしい。それと同時に、町並みを上から見下ろすという部分から、河口地区の屋根が視界に入る。屋根だけ分離してどうにかするわけにもいかないと思うが、屋根が一つのイメージとなると、またすばらしい景観になると思う。

議　員）

お金がかからないやり方ということで申し上げた。屋根を塗装するくらいなら、それほどかからないと思う。表通りを板張りにするのも、それほどお金がかからないと思う。例えば菊をつくって、秋には菊の道の散歩の催しをやったり、みんなで盆栽を持ち寄って神社の参道の辺で見せて散歩してもらう。イチイなどを一軒なし入り口に植えて、すてきなイチイを見る会をやる。そんなふうな

お金のかからない方法が考えられる。

議　員）

この２つのグループについては、最初は意見をお聞きするような場面から始まったが、それが盛り上がった。今、世の中が補助や助成を削減はしても、今まで以上に出すという時代や財政事情ではない。今の話を聞くと、出発がそういう状況だと、町とすれば話が進み過ぎてしまって、グループと町の関係はあまりうまくいっていないということはないか。

出席者）

そんなことはない。そういう意見を町の行政の中に取り入れて、別の面でも使わせていただく。確かに民意をもって町並みをつくり上げるということは難しいところがあって、行政ができる範囲内の道路工事や河川改良工事などについては、町が率先して行う。それに合わせた町並みをつくっていただきたいというところで、皆さんに考えていただいているのが現状である。

議　員）

大石のところの交差点から始まってきれいになった。観光地に来たなあという感じがするようになってきた。

出席者）

なぜ発展したかというのは、自分たちがやってくる中で町と協働、官民一体となってということでスタートした。町並みも国道の補修をどういうふうにしようかという段階で、前から感じていたことだが、車が通らなくなったらとてもじゃないと強く感じた。ここで何かしないといけないだろうということで、これからも地域全体の活性化のために、町並みの現状をしっかり把握して、悪さよさを出して一つ一つ改善していく。例えば、環境の問題。耕作していない土地がたくさんあって、草ぼうぼうで火事の心配もある。そういったところも、田園地帯というふうなところであればそれも保たなければならないし、貴重な田んぼも残していきたい。道もきれいにしたい。観光で訪れた方々が気持ちよく散策できる道にしたい。水もいいね。せせらぎも、昔は川があったでしょう。それは実際の生活に基づいたあのきれいな用水であって、それがいつの間にか激しい車の通りなど安全性を考えて、川がふさがれた。車が通らなくなったので、ふたをあけて川をきれいにしたいのだが、まずきれいにすることが大事だと思う。これからどうできるかということが、当面の一番大きな根幹。それができないと、飾り物をしてもそれが地につくとは言えないと思う。やっていく中で危機感を感じて、今ほんとうに車の台数も少ないので地域が寂しくなる。このままでは雑然とした地域で終わってしまって、湖畔だけがにぎわう。湖畔はすばらしいが、中へ入ると汚いとか、下水道もまだ通っていないという感じになってしまうと問題である。下水道は町でも順次やってきているが、川下のほうには徹底しきれていないし、実際は敷設しても利用していないところがある。こういった課題も町全体の課題としてはあるだろうし、地域とすればこれを機会にまちおこし、地域おこし、活力ある地域にしていきたいということで、委員の皆さんの御意見をお伺いしたい。

議　員）

２つの団体のお話を聞いていると、こちら側（河口地区の街並みを考える会）が町の役所の関係の人、こちら側（冨根都クラブ）が商工会の関係の人というように、浅間神社を中心とした町づく

りを考えている団体以上の非常にハイレベルな団体で、農業の問題もあれば経済、福祉、環境の問題までやられているという非常に奥深い活動の意義を感じている。

こちら（冨根都クラブ）は、それぞれ商店主、会社の代表の方々が地域の右肩下がりの経済に対して、地域を挙げてバックアップをしていきたいというようなことで、ぜひ町としてこういう方が中心となって町づくりを考える全体的な審議会というようなものをつくっていただきながら、もう少し掘り下げて、浅間神社を中心ということも大事だが、もっと全体的な中で考えていただいたほうがもっと見地が広がるのではないか。

掘り下げていくと、街並みを考える会については、浅間神社から始まっているのであれば、実際に中のことはわからないが、たとえば神楽をやる人たちがいるのかどうか。そういった人材を文化伝承として残していくのかどうか。あるいは、イベントも神社の年間のイベントに合わせて地域の方々が協力していくという、純粋に浅間神社の氏子というようなイメージでこの地域を盛り上げていく活動の原点に戻っていく。そういうほうが地域の方々、周辺の方々にとってはわかりやすい。あまり大きくなってしまうと、曇ってしまうという一面もあるかと思う。そんな中で原点に戻って、浅間神社を中心にしたほうが活動もしやすいと思う。ちょっとものの見方が広がり過ぎているという感じもする。

冨根都クラブのほうは、会員一人一人の仕事に関する事業があまり出てきていない。イベントに合わせて自分たちの店の物をどんどんＰＲしていく。例えば、その地域でＢ級グルメに挑戦するようなものを持っているとか、あるいは地域によっては地域アイドルなんていう時代にもなっているので、地域を売り込んでいくには、もう少し掘り下げて自分自身の店の売り込み方というようなことも必要ではないか。

設立の趣旨がにぎわい、最終的には住みやすい地域ということであるので、高齢化・少子化も進んでいる中で、例えば遠くのほうでは高齢者が買い物に来られない。そういう方々に対する仕組みといったものも、これから商業の大事な部分ではないかと思う。

議　員）

「冨根都」で「ふなつ」と読むのか。冨根都の冨の字が、点のない冨というのは、何かこだわりがあるのか。

出席者）

別にこだわりはない。昔からこの字なので、意味はわからない。

議　員）

中銀の辺から、役場の辺から旧商店街、かつて中心だったと思うが、河口大橋ができ、ショッピングセンターベルができ、中心商店街が移動してきたわけだが、後継者の問題はどんなふうになっているのか。

出席者）

後継者がいるところは頑張っている。しかし後継者がいないところは、だんだんと減ってきている。河口湖の場合、富士吉田と大型店が違うのは、ベルに行ったのが河口湖の中の商店が向こうへ出て、新たに商売をしている。早く言えば、仲間内で大型店の中をやっている。しかし今は、全国的な大手が来てやっている。町全体の商店が大変である。

大橋が無料化されて、駅から船津３差路を中心に道がすいてきていて、通り抜けの車にとってはいいのだが、車が少なくなったら車がスピードを出すようになった。歩道が完全に整備されていないので、きょうはそのお願いをしなければならない。歩道が全然整備されていなくて、大橋が無料になってから３回事故が起きている。今まで数十年間事故はなかった。車が込むからみんな気をつける。気をつけるから事故がない。河口も同じように車が少なくなると大きい事故が起こるのではないかという心配がある。

議　員）

私どもは農政産業観光委員会ではないけれど、そういう話をしていただけるような糸口の話を逆にさせていただいた。ベルができた経緯も存じ上げている。土木森林環境から離れて話をさせていただいているが、いずれにしても河口湖の場合は市街地の町並みの形成が全然変わってしまって、富士吉田市から富士河口湖町へ若い人がかなり移住している。市役所の職員でさえ河口湖に移る人もいる。

議　員）

私は甲府だが、河口湖というと小学校の遠足に来るときにカラートタンから始まって、完全に観光地とういうイメージがあった。甲府も昇仙峡を含めていろいろなところがかなり衰退している中で、河口湖地区というのは、例えばオルゴール館やハーブ園などがあったり、観光地としてすごくいいイメージを持っている。

景気が悪いとか人が少ないという問題ではなくて、今回、国道１３７号新倉トンネル（仮称）ができることによって、通り過ぎてしまう人のことはあまり気にしないで、本当にここに来たい人が危なくなく来られるまちづくりと、おみやげ品店にしても遊ぶところにしても、それを目当てに来てくれる人たちをしっかりつかまえ、ここで思い出をつくれるようなまちづくりをしていってもらいたい。逆に声援を送りたい。

議　員）

皆さんのとうとい活動に敬意を表しつつ、平日昼間にもかかわらず大勢の方に集まっていただきありがたい。

今年は大震災があった。まちづくりというときも、これからはどうしても災害に強い地元をつくるんだという視点は外せないと思っている。もう１つは、甲府ももちろんそうだが、高齢化がどんどん進む中で車いすの方もふえる。視力が弱くなる方、耳の遠い方。避けて通れない日本中の課題で、日々生きていく中でどうしてもバリアフリーとか、誰にとっても優しいまちづくりというのは、忘れられない観点であろうと思っている。災害ということと、バリアフリーということを念頭に置いて、皆様がさらにいい活動をされていくことを願っている。

もう１つは、そもそもは景観づくりということで発足されたと聞いているし、きょうは県の美しい県土づくり推進室の室長も来ている。県のほうで、これまでも景観づくりに長く取り組まれてはいたのだが、室もできてしっかりと取り組んでいこうというところで、ここに白羽の矢が立ったと認識している。それで交付金もおりているかと思うが、その交付金のことで経験をされて使い勝手やこうあってほしいという希望があれば、室長も見えているので、そのことも話題に御意見をいただければありがたい。

出席者）

私ども美しい県土づくり推進室は景観を扱っている。まず今年の６月補正で、景観形成モデル事業という新しい事業を始めさせていただいた。これは市町村に補助する事業で、限度額があるが市町村事業に対して２分の１補助をする。あと、いろいろな景観づくりの中で住民の方にも補助をする。ただし、これは住民の方に直接ではなく、市町村に補助をして、市町村が住民の方に補助をする事業を６月につくらせていただいた。皆さんのイメージで言うと、能登の輪島や高山などで軒先に格子をつくったりしている。先ほども話題になったが、屋根についても三州瓦の名所では瓦にするとか、色の指定とか、屋根の勾配をつけるとか、そういうものに対して補助する制度がある。こういうものについて、住民負担を最低でも５分の１は自前で出していただく。残りについて、場合によっては市町村と県が２分の１ずつ補助する制度をつくらせていただいて、ことしから始めた。ぜひ活用していただきたい。

もう１つは、来年、美しい県土づくり推進大会という県民大会をやろうと思っている。この県民大会には、皆さんみたいないろいろなＮＰＯを初め、山梨県の各地でまちづくりを行っている団体にもぜひ参加していただきたい。そういう場で皆さんの意見を共有してもらったり、また情報を共有してもらおうと考えている。各地域で課題は違うが、いろいろな御苦労と解決策、失敗作といったいろいろなものがあると思う。そういうものの情報交換の場として、美しい県土づくり推進大会を来年１月３０日に開こうと考えている。私ども景観づくりという形の中だと、このような形で皆さんに補助をしたり、いろいろな情報という形で御協力させていただければと考えている。

議　員）

富士河口湖町ではその補助制度を使っているか。

出席者）

満額使う予定である。

議　員）

それに上乗せして、県が何かできるようなものはないのか。

出席者）

モデル事業なので、河口湖の中でも例えば御師の家とか町並みとか歩道というようなところで、公共がやる部分と、それに関連して住民の方たちが民間としてやられる部分に対しての補助が、今言った住民の補助。

出席者）

畳岩の清掃を年に２回やっている。その中で、３０年も４０年も前につくったベンチと、足だけが残ったテーブルがあって、それを全部補修した。町にお願いして予算を組んでもらって、足りない分はすべて手弁当でやっている。そのほかに大きい太鼓橋があって、崩れてしまっている。それは全然直してもらえなくて、観光客が来たら危ないと思うが、そういうのは何とかならないのか。国立公園内だからいろいろ規制があるらしい。

議　員）

橋の関係は、所管が観光部になるのか、県土整備部になるのかわからない。

出席者）

観光部になると思う。観光部もおもてなし条例とか、いろいろな形で景観に対して取り組んでいただいている。

出席者）

屋根の瓦の色は、これとこれというふうに決められているのか。

出席者）

富士河口湖町の場合、景観計画を作成中である。この景観計画の中で、いろいろな色というものが議論されるだろうと思う。まだ結論はついていない。

あと１つ、私どもの美しい県土づくりには景観アドバイザー制度というものがある。ここには、色彩の専門家や建築の専門家、植栽の専門家、もちろん町づくりや景観の専門家、大学教授などいろいろな人がいて、こういった方たちを派遣する制度としている。仮に屋根の色を決めようというときには、そういう先生たちにも入っていただいて、住民の方たちと意見を交わしてアドバイスをしていく。ただし、今まで橋や建物の色ということで議論をしたが、景観の先生たちは決して「この色にしなさい」とは言わない。「こういう色がいくつかある中で皆さんいかがですか」みたいな形で話をする。カラープランニングというような先生もいらっしゃるので、ぜひ御利用いただければと思う。箱根とか鎌倉とかいろいろなところでやられている先生である。

議　員）

今回、文化遺産で２月にユネスコに推薦書を出す。その中で景観計画も入れる。景観計画が出ると、壁の色や屋根の色も決めなければならない。その前に、内容を皆さんでたたいてもらわなければならない。サイン計画もある。

駅から下へ歩道がない。もう１点は、スバルラインを船津の３差路までつなげなければだめだ。そのためには、都市計画道路の変更。勝山の条例が合併してなくなった。新町でも生け垣条例を検討するのか。

出席者）

検討します。

議　員）

今度はそれが生きてくる。

山梨県全体もそうだが、特に富士北麓地域は景観がよくなければ、お客さんが来ない。おもてなしより何より、景観がよくなければ２度と来ない。来なければ地域が発展しない。旧道だって、県に歩道をつけて石畳にしてもらうのではないのか。あのまま返されても困ると思う。ちなみに富士吉田は、国道が２本あるので、だめだったらもらわなければいい。

出席者）

その事業については、歩道つきのコンクリート舗装が既に発注済みである。

議　員）

バイパスができたおかげで河口地区も人が通らなくなったのでは困るし、せっかくお客さんが来ても正三角形のあそこのところ、新倉から出てきたところが道をつけて歩道をよくしてくれることになった。植栽をつけて桜ともみじを植えてもらって、あっちからずっと行って浅間神社のほうを回って、下のウォーキングトレイルのほうへ来られるように。全体的に仕上げなければだめだ。

やっぱり昔の家は赤いトタンではない。なんで中２階かというと、お蚕をやっていたから。だからカヤぶきでトタンぶきで、中２階を生かして昔の御師の門戸をつくりかえる。それで、総体的に歩ける。ということで、県ができることは県でやる。町がやるべきことは町がやる。

※河口福祉センターにおいて、意見交換会を実施した。